

# 会 議 録

会議の名称	令和4年度 第4回坂戸市社会教育委員会議
開催日時	令和5年3月17日(金) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時00分
開催場所	坂戸市役所 301・302会議室
議長(委員長)	横田 政行
出席者	菅原 繁子、石橋 妙子、中村 博、横田 恒雄、田中 映子、 鹿ノ戸 久美子、久保田 美穂、加藤 拓、横田 政行 9名出席
欠席者	北原 文子、向後 正隆、宮崎 準也、金丸 行男、杉田 義昭、 小川 孝 6名欠席
事務局	太田教育長、宮崎教育部長、岡田次長兼社会教育課長、 仲島スポーツ推進課長、菅野社会教育課副課長、橋村主事補 6名出席
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司会(事務局)  委員長	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 年度末のお忙しい中、社会教育委員会議に集まってもらい感謝する。 3月には、新型コロナウイルスの扱いについて、個人判断に変わったという話もあるので、4月から学校等も今と多少違う風景が出てくると思う。今の子ども達は、入学当時からずっとマスクをしていて、友達の笑顔を見たことがないという卒業生もいたようだ。早く正常化され、私達の元の生活に戻れば良いと考えている。 今日は審議事項が1つのようなのだが、よろしく願います。</p>

<p>教育長</p>	<p>年度末の御多用のなか感謝する。</p> <p>おかげさまで、社会教育の事業関係も概ね順調に終了に向かっている。協力に感謝する。</p> <p>少し話は変わるが、委員長からあった新型コロナウイルスの関係で、昨日、坂戸市で来年度初めて教員になる人たちの顔合わせがあった。その時に、距離も保ており換気もしたということで、せっかくなのでマスクを取って自己紹介をし、こちら側も話をするときにマスクを取った。表情が見えて、一人一人が本当にいい表情で自分の思いや願いを語っていて、これが正常なんだなあと改めて思った。</p> <p>もう少しの辛抱と思っているので、皆さんも辛抱願う。</p> <p>さて、一昨日、議会で予算が確定した。来年度に向けても、のびのび塾、そしてさかど市民塾などの社会事業の関係でも予算が確保できた。</p> <p>今日の審議や報告を含め、来年度により良いものにするという視点で色々な意見をもらえるとありがたい。審議の際にも、関係している団体のことを紹介するなどしながら、より皆で理解し、よりよいものにできればということで、本日も協力してほしい。どうぞよろしく願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 資料の確認</p>
<p>教育長</p>	<p>4 諮問（社会教育関係団体に対する補助金の交付について） （1）令和5年度社会教育関係団体補助金交付について</p>
<p>（議長：委員長）</p>	<p>5 審議事項 （1）令和5年度社会教育関係団体補助金について</p>
<p>事務局</p>	<p>（資料1に沿って説明）</p> <p>社会教育法第13条に、地方公共団体が社会教育関係団体に対して補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞いて行わなければならないと規定されている。したがって、社会教育関係団体補助金交付上限額となる予算額を示すとともに、補助金の交付について審議をお願いします。</p> <p>本事業で交付する補助金は、市民が主体となって青少年の健全育成に対する環境を整え、子どもたちの成長に必要な様々な体験活動を行うことを目的に、青少年の健全育成活動や、子どもたちの様々な体験活動を実施する社会教育関係団体を補助するものである。</p>

委員

対象の4団体に対して、令和5年度の補助金の意向を確認したところ、いずれの団体も補助金を希望する意向だった。

補助上限額は4団体に対して、合計17万円。団体ごとの上限額は、PTA連合会のみ令和4年度の上限額から減額となっている。その他、ボーイスカウト、ガールスカウトは、令和4年度と同額である。

PTA連合会は、令和元年度から続いている新型コロナウイルスの影響により、事業を縮小して実施しており、繰越金が増加傾向にあると報告をもらっているため、今回予算額を減額とした。

本日の審議結果に基づき、令和5年度の補助金交付を行っていく。

ガールスカウト埼玉県第70団団委員長をしている。審議する上で1年間の活動の報告をさせてもらいたい。

1泊又は2泊の宿泊をしていたが、新型コロナウイルス流行でできていない。

日帰りキャンプを市民総合運動公園の野外活動施設している。とても使い勝手が良く、よく使っている。他のソロキャンプの方々も使っていて、日によって40から50人ぐらい来ている。やはり使い勝手が良いようで、東松山市や川島町など、いろいろな所から来ている。

コロナ禍で去年あたりからずっと流行っているメスティンという飯盒がある。薪で火を燃して、普通の飯盒で3合炊いて皆で分けていたが、密にならないようにするために、食べる時や作る時にも1人でもできるものが流行っている。子どもたちには1合から2合くらいまでのもの使う。自分の食べる分だけなので、いろいろなメニューを考えている。ピラフにすると行ってコンソメ、コーン、ベーコンを入れたり、焼き鳥の缶詰を入れて炊き込みご飯にしたり。300円ぐらいで作れる。乗せる台が必要で、下に固形燃料を置いて炊く。外だと風が吹くのでガードも要る。ひとつお持ちしていると、1,000円弱ぐらいになる。それをスカウトの分とリーダーの分を買わせてもらった。

1人でキャンプというのは寂しいような気もするが、みんなアイデアを出してやっている。食べる時にも、メスティンに持ち手があるのでそのまま食べられる。よそわないので人がくっついたりもしない。

	<p>新しいものをどんどん取り入れて活動していきたいと思 っていて、道具を新しく買わせてもらった。埼玉県連盟でも 日本連盟でも、やはり新しいことをどんどん取り入れ、今に 合うものを色々と考えてやっていかなければ、と活動して いる。</p> <p>審議の方よろしく願います。</p>
議長	<p>私もそういった道具を初めて見た。 他に意見等はあるか。</p>
委員	<p>P T A連合会の補助金の減額について。繰越金が多額の ためという説明だったが、翌年度以降も繰越金の額が減ら なければ補助金を減らすのか。</p>
事務局	<p>先ほどの説明のとおり P T A連合会は、コロナ禍で事業 が約3年間できなかった。そのため令和4年度の繰越金が 例年に比べて多額になるとの報告があったため、財政部局 と調整の上、令和5年度に限っては、繰越金を活用させて、 市からの補助金は減額するという形になっている。</p>
委員	<p>わかった。</p>
議長	<p>他にあるか。 意見が無いようなので、令和5年度社会教育関係団体の 補助については適切であるとしてよいか。</p>
委員	<p>はい。</p>
議長	<p>異議なしと認める。本議案については、坂戸市社会教育委 員会会議として適切であると決定した。 今日の審議事項はこれだけだが、委員から協議事項とし て何かあるか。 無いようなので、審議事項は終了する。</p>
司会（事務局）	<p>6 報告事項</p>
事務局	<p>(1) 第28回入間地区生涯学習フォーラムの結果について (資料2に沿って説明) 令和5年2月15日水曜日、ふじみ野市ステラ・イースト ホールにおいて、生涯学習フォーラムが開催された。社会教</p>

委員

育委員は、6名の方が参加した。

生涯学習フォーラムでは、全国視聴覚教育連盟会長および全国体験ボランティア活動総合推進センターコーディネーターである馬場氏による講演や、パネラー4人によるパネルディスカッションが行われた。

本日は、当日参加した委員にも意見や内容についての報告をお願いする。

先日の生涯学習フォーラムでは、どうするウィズコロナの生涯学習ということを中心に、馬場先生の基調講演では、IT化が急速に進んで社会の変化が激しい中で、様々な地域の繋がりが希薄になっているということが問題になっていて、それをどう結んでいくのかということがテーマだった。

社会教育に携わる私達や生涯学習、公民館、地域交流センターなどの役割がそういったことになってくると感じた。地域のコーディネートをやる人たちがアンテナを張り巡らし、地域をとにかくよく知ること、課題を見つけること、地域市民と学校・団体・企業などを結びつけて協力していくことが大事であるという話だった。

事例の中には学校応援団や、ふれあい食堂、自主防災などがあった。坂戸でもそういった取り組みが行われていると思うが、意外と市民に周知されていないような気がする。話をすると「そういうこともやっていたの、じゃあ協力するわ」という方も結構たくさんいる。

パネルディスカッションの方では、ふじみ野市のPTAの取り組みがあった。今子ども会が大変な中で、PTAも非常に大変だと感じた。親御さんたちでPTAに参加したいと思わないというのが80%ということで、私はびっくりした。

川島町が郷土芸能祭を昨年3年ぶりに開催して非常に盛り上がったという話では、ITと対面でのことを大切にしていこうというような、ライブはライブで楽しみ、研修とか情報はオンラインでという、そういった形にしていこうという話だった。

毛呂山町の発表では、子ども会ができないということで何もしないということではなく、防災キャンプとか、救命救急講習とか、海の子の体験、鎌倉街道上道が国の指定史跡となったそうで、その研修や勾玉作りを子どもたちと共に、ジ

委員	<p>ユニアリーダーが中心になって行われたとのこと。</p> <p>入間市の発表では、昨年の生涯学習フォーラムは急遽リモートに変わったが、結構大変だったという話だった。オンラインはすごく良さもあるけれども、やっぱり対面での情報量にはかなわないということ。また、それぞれの経験をした人がいないと、なかなかその立ち上げが難しかったという話を伺った。</p> <p>私も珍しいタイミングでの研修だったので出てみた。今まであまり出かける研修は行かなかったが、勇気を出して行って見て、大変勉強になった。</p> <p>基調講演の馬場先生の話がとても参考になった。生涯学習とは何か、社会教育とは何かというそもそものところから、私の頭の中では皆ごちゃごちゃになっているイメージがあって、そのようなところが自分でも整理された。</p> <p>社会教育というのは、そもそも地域の力を借りて教育を高めていく、その地域の担い手人材の育成などが目的なので、私達の社会教育委員の役割は、地域を繋げる役割、ファシリテートの能力がすごく問われている。研修の中でも、ファシリテーションの研修会があって、坂戸市社会教育委員会会議の中でもしてもらえるとありがたいと感じた。</p> <p>地域で繋がりを作ること、地域作り、まち作りの担い手について、公民館の役割を意識したことがなかったが、各地域にある公民館を拠点とした地域の繋がりがとても大事だと話していて、それがとても胸に落ちた。公民館をもう少し活用してもいいと感じた。</p> <p>馬場先生からの皆さんへの期待として、地域に多面的に関心を持ち、いろいろな分野の活動にアンテナを高くして自分の懐を豊かにすると書いてあった。社会教育支援の資源を把握しておくことと、ファシリテーション能力の向上を期待するところだと話していた。</p> <p>パネルディスカッションでは、ふじみ野市のPTAの改革の取り組みについて、既存のPTA組織はやはり、なかなか参加しづらく義務のようなイメージがある。そんな中から、子どもたちの活動のサポーターがいるっていうところに、PTAの改革をして、今も進めているという発表だった。</p> <p>毛呂山町の子ども会育成会では、コロナ禍で何もできなかったけれど、育成者は学ぼうということで、育成者の保護</p>
----	--

委員

者や、中学生、高校生、大学生が、まずはいろんな資格を取ろうと、救命救急の資格を取ったり、ダイビングの資格を取ったりしたそう。親や育成者側が大いに学んだという報告で、すごいと感じた。

学校を核とした地域作りで、地域と学校が相互にパートナーとして連携協働して行う事業が重要だという話があった。坂戸市文化団体連合会においても、出前講座や子どもの体験教室などを実施しているが、人数がこれ以上集まらない状況である。学校とどのようにして連携協働していくかがこれからの問題だと思う。私どもも協力してやりたいと考えた。

それから、学習指導要領の改正について話があった。わからない点があるので聞きたい。幼稚園における地域の文化や伝統に親しむ教育内容の充実は、どのようにして現在進行されているのか。

また、小中学校での伝統文化に関する教育ということも話があったが、どのような形で実施されているのか。

それから、部活動での社会教育関係の団体の連携がこれから先維持していくという話があったが、進み具合などどのようになっているのかを聞きたい。

また、川島町の説明で芸能団体が7割に減少したという話があったが、これは新型コロナウイルスだけの問題ではない。現在、新規会員が入らず、高齢化が進んでいて、会員はかなり減少している。ニーズが減る、場合によっては会長になる方がいないなどで団体が消滅するケースが発生している。これにはどのように取り組んでいかないといけないのか。一つ一つの団体だけの問題ではなく、大学など学校関係、行政と連携した形で、どのようにするかを考えないといけない。

それ以外では、今までも話があったように、ふじみ野市の方のPTAの改革ということで、先般、浅子連の話が出ていたが、やはり無理のない範囲で関わりを持つ、皆に協力してもらおうという形が必要ではないかという話があった。昨年子ども会の関係の話が出たが、坂戸市においても、その辺を他の子ども会にさらに関連付けていくということが必要じゃないかと感じた。

毛呂山町は、できることからやっているということで感心した。

委員

参加し、勉強させてもらった。感謝する。

基調講演の中では、地域課題がメインで発表されていて、現在は地域に多くの課題を抱えているという話だった。特に、地域の活性化、防災、少子高齢化、健康福祉、子どもたちの健やかな成長、若者の就労と多くの課題があると言われたが、少し漠然としていて、本当の課題は何かと感じた。実際私も把握はしていないが。基調講演では、こういった状況のなか、地域で色々なことをする必要はあるということは認識をさせてもらった。

また、そういう状況の中での、それぞれの発表があった。色々な特徴を話してもらい、その地域の活性化、地域の連携に関わることを話していた。

そして、今回資料にもあるが、坂戸市の地域交流センター化という話も出ている。前回の1月12日に、「センター化に係る進捗状況について」ということで、資料の提示があった。私もセンター化協議会の委員の一員として参加している。簡単に言えば、公民館を交流センターにするという話だが、その中にはいろいろあって、学校教育、社会教育ではできない、地域のコミュニティや、防災、福祉なども全てやっていく組織を作るということも含んでいると考えている。今回も、事業計画案が資料として提出されているが、この中に地域のネットワーク化というものがある。まさにこれが、今回研修を受けたその課題を解決するのに必要な組織のイメージ。公民館から交流センターに変えた時点で、福祉、防災、環境など、地域に関連するものはやっぺいこうということだと思う。検討も必要だが、委員には若い人が多く、どんどんやろうという意見が強い。基本計画書も、市民コメントや地元説明会があり、これをきっかけにしてネットワーク組織を作ろうという意図もあると思う。これを逃すと、こういうネットワーク作り、色々なところが集まって、課題を抽出して解決していこうという組織は多分できない。

ただ、公民館がなくなると公民館運営審議会がなくなる。組織がどう運営しているかを、社会教育委員が議論する機能もあると書いてある。地域の特性があってそれぞれだとは思いますが、我々社会教育委員もその中に入って、地域ネットワーク化について積極的に進める必要があると感じた。「もうやらなきゃ」という、危機迫ることを感じたので報告させてもらった。



事務局	<p>報告に感謝する。</p> <p>委員からいくつか確認があったので答えたい。</p> <p>幼稚園の教育のあり方と小・中学校の伝統文化について、部活動の連携についてはどうかという3点。幼稚園は坂戸市では私立幼稚園が大きな役割を果たしている。教育委員会としても、各私立幼稚園から教育上の相談があれば、力になっていくことを検討していくべきだと考えている。</p> <p>また、小・中学校における伝統継承については、社会教育課で無形民俗文化財協議会の方も紹介しているが、社会教育課を介さずに各小・中学校で総合的学習の時間等を活用して、囃子会が出前講座をやるなどの話も報告を受けている。無形民俗文化財協議会の場において事務局としてそういったコーディネーター役をやるということで、各無形民俗文化財の団体をお願いをしている。今後もこういった取り組みが進めば良いと考えている。</p> <p>部活動の地域移行については、文科省及びスポーツ庁、文化庁が当初は令和5年度から段階的に移行としていたが、その後進捗状況が変わってきた。国や県の動向を注視しつつ、部活動の地域移行について調査研究していきたいと考えている。</p> <p>交流センター化については、後ほど事務局から現在の状況等を説明させていただきたい。</p>
教育長	<p>委員から話があった学校を核とした地域作り、地域作りのための地域交流センター化、これらは目的は一緒だと思う。全部が全部どちらかになるものでないので、学校と交流センターと連携しながら行う。皆さんから報告いただいたことは全部通じていると思う。繋がりながら地域社会を作っていこうと。</p> <p>先ほど話があったように、住吉神楽のお囃子の団体が住吉中学校に行って、新年度、時間は少ないが、そこからやり始めてみよう。教育委員会の方は、地域によってできるところとできないところもあると思うが、それを色々な学校に広めていく。昨年度は、浅羽野中が、地域防災ということで、そういったものを教育の中に入れたという発表をもらった。そのように学校の特色に合わせて、地域とともにうちはこの辺をやっていこうと進められたなど。学習指導要領の話が出たが、その辺が社会に開かれた教育課程とい</p>

事務局	<p>うこと。</p> <p>正直なところ、各学校がコロナでいろんなことに制約があったり、学校が忙しかったりというので、やや停滞してしまっているところがある。どういうふうに引っ張っていかうというのを見直し、作り直していく、そんな段階になる。だから小学校でもこの時期を逃したくないということもあり、交流センター化に合わせてできることが考えられたらいいと思っている。</p> <p>いずれにしても、皆さんが考えているとおり、教育委員会の方はそこを繋ぐ役割。委員もそんな思いで言ってくれていて、非常に良い報告をもらい、こちらもできることをやっていきたいという形式的にならずに、自分の学校にあった自分の地域でできるところから、始めるような形で進めばいいと考えている。報告に感謝する。</p> <p>(2) 地域人材を活用した学習支援事業「学力のびのび塾」について</p> <p>(資料3に沿って説明)</p> <p>令和4年度実施した結果について報告する。令和4年6月4日から令和5年3月4日まで、11会場13教室、市内入西小学校の児童数が多く2教室に分け、市内12小学校の小学校を対象に実施した。</p> <p>参加児童数は、市内小学校在住の小学5年生が66名。小学校6年生が22名。小学校6年生については、昨年度の学力のびのび塾が新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止となってしまったため、そのフォローアップとして、3回分の継続で実施し、22名の方が参加した。</p> <p>支援員については、地域の方々、教育経験者や教員志望の学生など65名の方に協力いただいた。</p> <p>成果については、今年度行ったアンケートの調査の結果を抜粋して載せた。児童アンケートでは、「今までわからなかったことがわかるようになったか」という質問に対して「よくわかるようになった」、「少しわかるようになった」という回答が、アンケート回答者の90%以上と、参加いただいた児童には好評をいただいた。</p> <p>保護者アンケートでは、お子さんの勉強に対しての意欲の向上や、苦手意識の軽減に繋がったという意見があった。</p> <p>支援員アンケートでも、一部の方から効果を実感したという回答があった。</p>
-----	---

	<p>実際に会場を見学したが、静かに黙々と学習する子、賑やかになってしまってなかなか集中できない子、色々いたが、賑やかになってしまう子はマンツーマンで指導をしたり、黙々と学習する子たちには、分からないときに手を挙げて支援員が巡回しながら子どもたちに声かけをしたり、各会場それぞれ特色ある運営をしている。</p> <p>以上のことから、今年度の学力のびのび塾も、一定の成果があったものと考えている。</p> <p>続いて、令和5年度の実施要領について。今年度と同様に、参加児童の基礎学力の定着を図ること及び自学自習の態度を身につけること、並びに学習支援員の地域貢献する場とすることを目的として実施予定。</p> <p>大きな変更点は、対象を新型コロナウイルス感染症の流行の前に戻し、市内の小学校に在籍する4年生5年生に戻す。対象の拡大に伴い、教室数等が増える予定だが、事業の応募数に応じて変更の可能性がある。また、大家公民館が9月から工事のため使用不可となるため、9月以降は浅羽野公民館で実施する。</p>
事務局	<p>(3) 令和5年度さかど市民塾について (資料4に沿って説明)</p> <p>講師としての実践、学びの機会及び受講生の学習機会の創造を目的として令和5年度さかど市民塾を実施予定。</p> <p>令和5年4月からの開講講座について、2月に受講生の募集を行ったので結果を報告する。さかど市民塾は、受講生が5名未満の場合は講座を開講しない。また、定員を超える応募があった場合は抽選で受講者を決定する。今年度は39講座の企画、受講生募集を行った。受講生の候補者数は410名で、開講が決定した講座が32講座、受講決定者が328名。今後、開講とならなかった講座に申し込みしていた方や、抽選に漏れた方を対象に、開講決定した講座のうち、応募者が定員に達していない講座に参加できる旨を通知する。これにより、応募総数および受講者数に変更となる。</p> <p>その他は記載のとおり。</p>
事務局 (スポーツ推進課)	<p>(4) 第22回坂戸市民スポーツフェスティバルについて (資料5に沿って説明)</p> <p>令和5年4月29日土曜日、昭和の日に、第22回坂戸市民スポーツフェスティバルを市民総合運動公園及び勝呂公</p>

事務局	<p>民館にて予定している。</p> <p>本事業は、令和元年度以来4年ぶりの開催となる。未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見られないことから、以前の開催内容ではなく、市で定めている市主催行事等の開催に係るガイドラインに準じて、新型コロナウイルス感染防止対策を講じての開催を検討している。</p> <p>内容には記載のとおりだが、特筆すべき事項は、毎年オープニングセレモニーを実施しているが、終了後、今年度改修工事で人工芝化された第1多目的運動場を来場者に見てもらおう予定。</p> <p>また、プロスポーツ選手によるスポーツ教室については、サッカー元日本代表の岩本輝雄さんにお越しいただき、盛り上げてもらう予定。</p> <p>以前と同じような開催内容とはいかないが、スポーツフェスティバルが再開でき、来場の皆さんに喜んでもらうよう準備を進めているので、委員の皆様にもぜひお越しいただき、参加いただければと思う。</p> <p>(5) その他</p> <p>次第にはないが、坂戸市地域交流センター基本計画の概要案を説明する。</p> <p>今回の坂戸市地域交流センター化は、令和6年4月、再来年度の移行を目標に実施している。策定の体制というところで、意見聴取の地区別説明会、市民コメントの2つを説明する。</p> <p>今回交流センター化基本計画について、8公民館、入西地域交流センターの計9会場で、各地区の市民を対象に説明会を実施する。社会教育委員の皆様も、参加してもらえると大変ありがたい。</p> <p>公民館から地域交流センターへの移行ということで、先ほど委員からも話があったが、公民館の新たな役割として地域作りを行おうというところで、今回地域交流センター化を目指している。</p> <p>実際施設を使う方で一番大きく変わるのが、公的な利用制限。今まで公民館では、社会教育法の第23条の営利、政治、宗教活動の禁止ということで、その活動が公民館でできなかった。それが地域交流センターとなることにより、活動が可能になる。例えば、入西地域交流センターで実際に行っているが、お金を取ってコンサートを開催するなど可能</p>
-----	---

	<p>になる。</p> <p>先ほど各委員さんからもあったとおり、市としては地域作りの部分の1つの大きな核となるように、ファシリテーターやコーディネーターを各交流センターが務めながら、各地域の課題を解決していこうということが、今回の交流センター化の大きな目玉になっている。</p> <p>地域交流センターの管理運営について、基本的には今の公民館と大きな変更はない。社会教育、生涯学習事業ということで、趣味教養生きがい講座というのを、公民館で行っている。そういった社会教育は引き続き、交流センターでも実施することで進めていく。</p> <p>各地域にある区・自治会や、地域防災組織など、こういう組織を繋ぎ、連携、協働することによって地域の課題を解決していく地域作りをしていくということが、今回の交流センターの1つの大きな目的として移行するので、よろしく願う。</p>
委員	<p>先般の子ども会の関係は、どのような形になっているのか。</p>
事務局	<p>前回の社会教育委員会議で意見をもらい、過日、アンケートをお願いした全ての自治会等に結果を郵送した。</p> <p>今後は、新年度に、各地域の青少年に関する相談を受けるような仕組みを社会教育課の方で考えていく。</p>
委員	<p>それについては、また社会教育委員会の席で説明があるか。</p>
事務局	<p>その後の進捗状況について、社会教育委員会議で本日のような報告事項の形をとらせていただければと思う。</p>
委員長	<p>7 答申（社会教育関係団体に対する補助金の交付について）</p> <p>(1) 令和5年度社会教育関係団体補助金交付については、適切であると認める。</p>
副委員長	<p>8 閉会</p> <p>長時間にわたり、慎重審議お疲れ様だった。</p> <p>これからは、コロナのことにしても、考えながら自分たちの判断で動いていただければならない世の中になっていくのだ</p>

	<p>と思う。</p> <p>皆さん自愛するとともに、これからはどんどん色々なところで活躍されることを祈る。</p> <p>では、第4回坂戸市社会教育委員会議を閉会する。</p>
--	---